フラワーページ

「フューネラルビジネスフェア 2024」が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2024 年５月 29 日（水）～30 日（木）に、横浜市西区にあるパシフィコ横浜で「フューネラルビジネスフェア 2024」（主催：綜合ユニコム株式会社）が開催されました。９つの部門での企画展示があり、そのうち生花祭壇装飾や輸入商材などが展示された「フューネラルフラワー」の概要を紹介します。

１　「フューネラルビジネスフェア 2024」の概要

当フェアは、葬祭サービス・ライフエンディングサポートの総合展示会＆シンポジウムとして開催され、27 回目となる今回は 146 社が出展し、過去最大規模での開催となりました。フラワーデザイニング祭壇の展示コーナーは、白を使いつつ紫や青の寒色系の切花を多く使った祭壇が多数提案されていました。ステージでは出展企業プレゼンテーションなども行われ、多くの来場者が聴講していました。

フラワーデザイニング祭壇展示コーナー

２　（一社）フューネラル・フラワー技能検定協会（ＡＦＦＡ）の提案

当協会は、菊を使用した祭壇は必要不可欠としている一方で、現代のニーズを捉えた新しい生花祭壇を展示していました。

生花祭壇の設営は、祭壇の運搬や組み立てなど力仕事が多いため、作業者の負担軽減を目的として資材を軽量化し、祭壇を簡易に設営できるようにすることの重要性を訴えていました。

祭壇の装飾には、生花を使用するため、茎や葉等の大量のゴミが発生し、処分に経費や手間がかかっています。SDGs の取り組みとして、こうした手間を削減するため、従来のように花を面で構成するのではなく、花を前後左右に交差させることで奥行きをつけ、少ない花でもボリューム感のあるデザインとすることや、劣化が早いグリーンをリユースできるアーティフィシャルフラワー※に変更する等の提案がされました。

※シルクやポリエステルなどの素材で作られており、生花をリアルに再現することで、造花よりもクオリティーが高く、冠婚葬祭やデパートのディスプレイなどで使用されています。

新しく提案された生花祭壇展示

３　切り花の輸出入会社の取組

（１）青島天美花卉有限公司

青島天美花卉有限公司輸出時の出荷箱

中国山東省にある同社は、コチョウランを中心に育種から栽培、輸出までを総合的に行っており、アメリカやヨーロッパ、日本などに輸出しています。コチョウランの栽培は 20 年以上携わっており、高品質なコチョウランを提供することが同社の強みだそうです。

2025 年には 10 万坪（約 33ha）のコチョウラン栽培基地が完成する予定で、今後も輸出量を増やしていく計画です。

（２）株式会社エーワールド

輸出切り花で制作した展示の様子

同社は、韓国産の輪菊や、コロンビア産のカーネーション類・アルストロメリア、中国産の輪菊・小菊など、品質の良い切り花を国内に供給しているそうです。

海外の切り花は、大規模化による大量安定生産や、１品種を大量出荷できるといった利点があります。

物流面では、船便は、韓国（釜山港）から下関港などに１日で到着し、中国（上海港）から大阪・東京港に３～４日で到着します。航空便は、コロンビア（ボゴタ）から成田空港まで３～４日で到着します。現地に冷蔵設備を導入し、各産地から冷蔵トラックや冷蔵コンテナで日本の港や空港までコールドチェーン輸送が確立されており、品質の高いままでの輸送が可能であるとＰＲされていました。